

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域で行われている活動等に利用者様と参加し、地域と連携を図れるように努めている。 事業所独自の理念を作り上げている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	業務ミーティングを行って情報を共有しながら、職員が個々に理念を基に利用者様それぞれの希望に合った落ち着いた生活を送れるよう心がけ支援している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には、毎月ユニットの新聞作成し配布している。また、地域の方には4ヶ月に1度、新聞を回覧板の中に入れてもらい発行している。また、ホームページで情報がいつでも見られるようにしている。玄関先にも理念・方針を掲げており誰でも分かりやすいように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域での活動や行事の参加を通しコミュニケーションを図るよう努めている。また、散歩のときに挨拶をしたり、話しをしたり、草取りを手伝っていただいたり、庭に咲くお花をいただいたりと交流を図っている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町会で行われている「子育て支援」のボランティア活動日の行事に交流したり、町内会に入り、交流を図れるよう努めている。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員は、キャラバン・メイト養成講座に参加し、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ユニット職員でまとめられた評価と外部評価を照らし合わせ今後どのような部分を改善していいのかをミーティングの場でスタッフ同士意見交換をし改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い事業所の情報を報告しながら、意見等を参考にしサービス向上に生かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	町内会へ発行する新聞を、市役所にも配布し機会を設けている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修に参加したり、研修の情報を職員に流し学ぶ機会を設けているが、それを生かす機会はまだないので、今後必要な人にはそれらを活用できるよう支援したい。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	講演会や研修に参加し学ぶ機会を設けている。また、事業所内でも定期的にまた、問題が起きた時は、すぐさまミーティングやカンファレンスを開き職員の悩み等を意見し合いながら注意をし防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、契約書、重要事項等を一文づつご家族に説明し、理解をいただいている。また、解約をする際も、状態等に変化が見られた際は、ご家族に説明し状態を理解していただきながら、不安感、疑問感、不信任等をご家族が持つことのないように話し合いを行いながら理解、納得を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を通し、苦情や意見等を報告し、また、職員間では、利用者の苦情、不満に関して職員が傾聴し、その内容を申し送り時や、ミーティング時に報告している。その内容を基にスタッフで意見交換をし、より良いサービスが提供出来るように反映させている。	○	内容は、小さな事から大きな事まで様々だが、すぐにも実施できるような事もミーティングを開いてからとなるので、シフトが変則的な分大変な部分なので、職員がすぐに共有し合い早急に対処出来る様対応していきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会に来られた時、また状態の変化のあるときは、その都度ご家族に連絡をしている。また、個人、各ユニット内にそれぞれアルバムを作成し面会時に見ていただいている。また、毎月各ユニットで新聞を発行、ホームページの日記等で暮らしぶりを報告している。金銭管理に関しては、毎月領収書を発行し、残高と出金が明白になるよう報告している。職員の異動については、家族会を通し、各職員を紹介している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置、電話やFAX、訪問時、家族会を通し意見等を言いやすい機会を設けているまた、外部では運営推進会議を通し報告をし、職員間では、申し送り、ミーティングを通し、意見等の共有を図り、個々のご家族の思いに理解し運営に反映している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者にいつでも相談や意見を求めやすい雰囲気が出来ている。また、ユニットの業務ミーティング、に参加し意見等を反映させてもらっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	急な勤務変更や受診等にはユニット長が負担している部分が多いように感じるが、その都度職員間でカバーし対応が出来ている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間の異動があった際は、利用者様の混乱や不安を軽減する為、利用者様の情報を交換する等を行いケアに努めている。	○	スタッフが異動の際は、スタッフ自身がユニット内の雰囲気や馴染み、利用者様のケア内容や生活の様子等、十分に把握できるような段階になった上で夜勤等の勤務につけられるようになると思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>法人内外の研修に参加したり、指導を受け色々な意見を聞くことができ、向上心を持ち働く事ができている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>グループホームの広域連絡会等の場を通し、他施設の方とも交流を図り、スキルアップを目指し取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>スタッフそれぞれの様子を気にかけてくれ、その都度声を掛けてくれたり相談しやすい雰囲気ができている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>自己評価を行った上での面談を実施し、個別に仕事に対する現時点の考え方や悩みを聞いた上でアドバイスをくれたり、問題点の解決の為早急に対処してくれ、向上心を持ち、前向きに働ける環境を整えてくれている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>利用者が不安等、何かを求めている時はゆっくりと傾聴し、不安を軽減できるよう支援している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族からの相談に耳を傾け、不安を軽減したり疑問を解決出来るよう努めている。また、どのような雰囲気の中でケアを行っていくのか家族にわかりやすいように伝えるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の話を傾聴し、どちらも納得できるような支援を見極めて、対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族全員(本人も含め)ホーム内を見学していただき説明をし、安心していただいたり、入所時は、家族や本人の希望があれば、お互いが安心するまで宿泊等をしていただきながら、安心していただけるよう配慮しまた、入所前は自宅等を訪問するなどして、馴染みやすい関係になれるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的な介護ではなく、(介護する側、される側という位地付けはなく)寄り添いながら時々には一緒に楽しむ仲間、悩みを聞いてくれる家族、支えたり支えられたりする関係を築けるよう努めている。		利用者とのコミュニケーションを大切に、その時々体調や状況をみながら、一緒に行う作業を通して達成感をあじわったり、その後感謝の気持ちを伝えるようにしている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が面会に来られた時はなるべく日々の様子をお話するようにしている。また、家族も他に介護しなければいけない家族を抱えて忙しい状況をお話される時は、理解を示すようにし、普段の様子や変化を伝えながら関係を築いている。	○	家族の状況により、しっかりと情報交換ができない場合もあるので、家族が抱えている意見があるならば、気軽に聞いていけるような機会も増やしていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人にどう接していいかわからないと言われる家族の方もいらっしゃるので面会時、何気ない日常生活行為をお手伝いしてもらう等をしていただいたり、ご家族の状況や環境等に考慮し本人や家族が混乱のないようにスタッフが間に入り円滑にコミュニケーションが図れるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前から通われていた老人クラブへ継続して通えるよう支援したり等、入居前に行っていた生活習慣を崩さぬよう支援している。また、面会時、家族以外に以前の友人や知人の方等、気軽に尋ねてきて下さる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の状況や利用者同士の関係を把握したうえで、本人同士無理がないように支援し、また場面場面で利用者同士が係わられるような工夫をしている。(レクリエーションの取り組みや、ティータイムを通してのスタッフを交えての会話等)		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年始の挨拶状やお手紙や電話などで、継続的な関わりを持ち関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者が何を思っているのか、本人の希望に沿った支援また、その希望に近い支援が行えるように、スタッフ間で情報を共有したり、本人の係わりを大切にし、生活を支援する事を常に心がけている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	書類や記録、家族からの情報のみでなく、本人との係わりの中から等、様々な方法で利用者の負担が少なくなるように情報を収集し、これまでの生活リズムを乱さない支援に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	精神的、身体的な変化はないか、利用者の状態をよく観察し、スタッフ同士情報を共有し、気になる点は記録や送りのノートに残しておく等して、スタッフ全員が把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の希望や意向を踏まえた上でケアプランを作成し、ミーティングの機会を設けプラン内に改善点や問題点はないか、スタッフ同士意見を交換し作成している。	○	ミーティングに参加できないスタッフからも事前に意見を聞き、スタッフ全員の考えがケアプランにすこしでも反映できりような話し合いを行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的、または、変化に応じてその都度プランを見直し、作成し、現状にあったケアを行えるよう努めている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特変とまではいかないが、ちょっと変わった言動、行動の記録は職員によって多少のバラつきがあるように思えるが、記録に残しその情報を基に見直しに活用できるようにしている。	○	記録の仕方がスタッフにより違うので、何か変化等が生じた場合は、誰が見ても分かるように理解しやすい内容で詳しく記入することや本人の言動や行動は、出来る限り書くようにスタッフで記入する事を統一していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の希望をに合わせ、外食や外泊、家族の宿泊等、要望に答え柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	その時々々必要な地域資源を活用し、協力していただきながら支援している。また、行事の際などは、ボランティアの方に協力していただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	話し合う事はあるが、支援は現状ではない。	○	他のサービスが利用できるように支援するとともに、他の事業所の方ともっと交流を深められるよう努めたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現状ではないが、地域包括支援センターの職員と、運営推進会議、その他を通し相談等を言える体制が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人が通っていた馴染みの病院に受診している。また、馴染みの病院がない場合は、本人と家族の意見を希望を聞きながら受診が出来るよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近郊の専門医の受診の受診で相談したり、母体の精神科の医師や看護師に相談等をし、受診、入院、治療が必要な時はすぐに対応しながら支援している。		
45 ○看護職との協働  事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週看護師による訪問があり、口頭や記録で利用者の状態の相談、把握を行いました。電話を通して常に相談が出来ている。また、利用者の地域の掛かりつけの病院、薬局等にいつでも連絡相談ができる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は、ケースワーカーを通しての状態の情報交換や、お見舞い、家族等との連絡で相談し連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取り指針やアンケートを通しご家族の意見や本人の意向を聞いているが、関係機関と繰り返しの話し合いはできていないと思う。	○	今後は、家族とも重度化した場合や終末期について個々に話し合いが出来る機会を作っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看取り指針があり、ホームの看取りに関しての理解をしていただいている。また、職員ともミーティングを通し話し合いをしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族、本人に係わりながら、話し合いをした上で検討し、住み替えによるダメージを最小限に出来る様配慮している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者の尊厳を傷つけるような声掛けや対応をしないよう注意している。また、必要以上に個人情報を開示しないよう記録の取り扱いにも注意している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者それぞれの力に合わせて、訴えに傾聴したりまた、思いをなかなか言葉に出して言えない利用者に対して声掛けや促しにより、本人の負担にならないよう、気持ちを表現できるような対応に努めている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の個人の生活リズムやペースに合わせ、スタッフがそのペースに波長を合わせた支援ができるよう努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人や家族から希望がある場合は、馴染みの店に連絡をとり、送迎をし見守りを行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>ティータイム時は本人が飲みたい物を用意する。また、食事の準備等も利用者の状態(体調・精神状態)に合わせ、負担にならない程度の準備や片付けを共に行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の既往歴や現時点の状態を考慮し、掛かりつけ医や看護師に相談しながら対応している。本人の好みに合わせて嗜好品が楽しめるよう献立の決定時やティータイムの時間に何を欲しているか尋ねたりし配慮、支援している。		ティータイム時に、利用者どんな飲み物が飲みたいか、それぞれの希望を聞いたり、本人の好みにあった物を飲んでいただいている支援を今後も継続していきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日々の介護記録やスタッフ間での情報交換により、本人の排泄パターンを把握し、本人の希望に沿ってケアできるよう、声掛け、誘導に努め、支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望や生活リズムに合わせて声掛け、誘導を行っている。また、拒否があった場合は無理強いせず、体調、気分配慮しながら本人が望む形で気持ちよく入浴ができるよう努めている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の状態に合わせて適度に休息ができるよう努めている。また、意志をうまく表現できない利用者の方に対し表情や姿勢などをよく観察し、休息と活動のバランスを保って対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ドライブ、散歩、レクリエーション活動や、利用者がやりがいを感じる事。日々の家事や掃除、畑仕事など、その時の状態に合わせて達成感を味わうことができる様支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望があったり、また、気晴らしなどで外出の誘いをかけたりときっかけは様々だが、自分で金銭を所持されている方と買い物に出かけた際には、職員が付き添い、見守り、フォローできる様にしている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や利用者の体調、状況を考慮した上で、散歩やドライブまた、庭先でのティータイム等気軽に外の空気が感じられるよう支援している。	○	もっと積極的に外へでる機会を増やしていきたい。また、普段自分から外に出る機会の少ない方にも外出を楽しんでいただけるように本人の無理がない程度に促していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	演劇やコンサートや催し物等、普段行けない所にスタッフが付き添い外出され楽しんでいただけるように支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	利用者本人の希望に合わせ、自由にやりとりができるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時は、ご本人と面会者がゆっくり会話を楽しんだり、くつろいでいただけるように声掛けをしたり、時にはティータイムの誘いかけをしたり等行っている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事を職員は理解しており、身体拘束になるような対応や言動には十分配慮し、きを配り取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者様の活動範囲を狭めてしまわぬよう、鍵を掛ける事の弊害を理解し、ケアに努めている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者様に違和感や不快感を与えないように注意し、配慮し、入居者様の安心とプライバシーに配慮した確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者様、一人ひとりの状態に合わせて対応するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤薬を防ぐ為に管理方法や服薬時に注意すべき点等、職員同士意見交換を行い、統一した対応を与えるようにしている。又、ヒヤリハットや事故報告書等を記入していると共に、コピーをし、職員全員が目を通せる。また、ヒヤリハットや事故報告書等は、業務ミーティングでも話し合い事故防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命救急の訓練を行なっている。	○	普段から職員同士でイメージトレーニングを朝のミーティング時などで行えるようにし、いざというとき慌てず、対応できるようにしたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年2回行い、避難方法、消火方法等を学んでいる。	○	職員全員が参加できるわけではなく(日中、夜間想定の人数が決まっているので)体験できる訓練が違うのでスタッフ同士の情報を共有していきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクやストレス等に対する軽減に考慮し、家族に理解と協力を得行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化や異変に速やかに気がつけるよう、表情や動作、話し方等を注意して観察し、行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者が服薬している薬の名前と効能や副作用等について記された個別のファイルがあり、疑問に感じたときはいつでも確認できるようになっている。薬の変更時は、しっかりと観察し、変化等があった場合は必ず記録に残し、申し送りすることに努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	本人の負担とならないような排便ができるよう、訪問看護師に相談したり、スタッフ間で意見交換を行いながら、水分量や乳製品の摂取等、予防できる働きに務めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、入居者様に合った口腔ケアを実践し、また、声掛け促しを行なっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の普段の水分摂取量の把握をし、支援するように努めている。また、普段より食事摂取、水分摂取量が少なかったり、多かった時には、必ず申し送りをし、また、記録に残し対応している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出時のうがい、手洗いの実行、ノロウイルス対策として消毒液による調理器具や家具、用具の消毒を感染委員が中心になり送られ実行している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後の布きんの漂白、消毒を行なっている。また、まな板等、毎日使用する調理器具の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先に置物や、季節ごとに変わる飾りを配置したり、建物の周りには、季節ごとに咲く花が植えられ、親しみやすい雰囲気作りに努めている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様に違和感や不快感を与えないように注意し、配慮し、入居者様の安心とプライバシーに配慮した確認を行っている。不快感を与えないように照明の加減や位置に配慮している。また、季節感を感じられるよう、その季節によってのイベント(クリスマス、ひな祭りなど)の飾りつけをし、楽しめるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者同士お話しができるように、ソファの位置に配慮したり、静かな時間を過ごしたい方は別のリビングにてくつろいでいただく等、(リビングがキッチンを挟み2箇所あるため)をし、利用者がそれぞれ自由に時間を過せるように工夫している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が今まで使っていた物(家具や身だしなみの道具等)を持ってきてそれを使用し、利用者の混乱を少なくまた、過しやすい環境を作れるよう努めている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	状況に応じて換気に努めている。又、利用者それぞれの体調や希望に合わせて温度調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	トイレ、浴室、居室周りに手すりが設置されており、利用者ができる部分を活かす支援が行われるよう工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来る事ややる気があり、自分でされようとする事は遠くから見守り、また、利用者同士で助けあったりできるよう声掛けをしながら、利用者それぞれの状態に合わせて、話しを傾聴しながら、利用者の意見、意志を表情や動作から汲み取り、本人に安心していただいた上で一人ひとりの力を活かし生活していただけるよう支援している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム周辺は、花壇や花畑になっており、室内から鑑賞し楽しんだり、利用者と共に花の手入れをしたり野菜の収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)利用者一人ひとりの個性を大切に、大らかで柔軟なケアが行なわれていると思います。